

第1学年 公共×英語コミュニケーションⅠ 学習指導案

1 題材名 日本国憲法を考える ーなぜ憲法前文はよく分からぬのかー

2 目標

- (1) 日本国憲法の前文にある「基本的人権・平和主義」などの理念を、その成立の歴史的背景から理解することができる。(公共 知識・技能)
- (2) 日本国憲法前文で使用されている助動詞や多義的な意味を持つ名詞・動詞の意味と、それらの単語が持つイメージを捉えることができる。(英C I 知識・技能)
- (3) 日本国憲法前文の内容を理解した上で、日本国憲法前文のポイントを踏まえ、前文の内容を自分の言葉に置き換えてペアの相手に伝えることができる。(英C I 思考力・判断力・表現力)

3 準備物

生徒 筆記用具、憲法前文の白文(英語・日本語)が書かれたワークシート

教師 パワーポイントのスライド

5 教材観・指導観

〈公共〉

日本国憲法前文に内包される根源的な理念を、歴史的背景との関連において深く探求させる点に核心を置く。具体的には、生徒が憲法前文を通じて「基本的人権・平和主義」といった普遍的価値の成立経緯と意義を理解できるように指導する。前文の全体を網羅的に精読するのではなく、三大原則(国民主権、基本的人権の尊重、平和主義)と特に関わりの深い箇所を意図的に取り上げ、その内容について生徒が多角的に考察を深められるよう焦点を絞った指導を展開していく。これにより、生徒が憲法の理念を単なる知識としてではなく、自らの思考を通じて把握できるように導く。

教材である日本国憲法前文は、基本的人権や平和主義といった憲法の理念を、成立の歴史的背景とともに理解するための基盤的資料として位置づけられている。この教材を通じて、生徒は抽象的な憲法の理念を具体的な条文の中で認識し、要点を確認する。また、ワークシートに記載された日本語版の前文は、学習内容を整理し、憲法前文の要点を適切にまとめるための思考の足場としても機能させる。

〈英語〉

英語の学習においては、語彙・文法・発音をはじめとする言語材料の確実な理解・習得と、それに基づく言語活動による4技能5領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くこと)の伸長の両方が重視される。本教材では、言語材料においては日本国憲法前文というオーセンティックな英文を精読する活動を通じて、助動詞や多義的な意味を持つ名詞・動詞の意味を正確に捉え、それらの単語が持つイメージを把握できるようにすることに重点を置く。精読に際して、辞書の活用により各単語の品詞や用法に着目させたり、これまで英語コミュニケーションⅠや論理・表

現Ⅰで学習した知識を活用して英文を読解させたりすることで、既存知識を活用して問題解決能力が育成できるようとする。

また、後半では理解した日本国憲法前文の内容を「自分の言葉に置き換えてペアの相手に伝える」という言語活動を課すことで、読んだ英文をもとにその内容を伝え合う、技能統合的な英語技能の伸長を図る。この活動を通じて、憲法の内容を英語でのやりとりの中で英語で再確認させ、学習内容のメタ認知を促す指導（公共および英C Iの観点から新たに気付いたことを記述させる）をもって授業を完結させる。

日本国憲法前文の白文（英語）は、助動詞や多義語彙といった言語的要素を分析し、知識・技能の習得を図るための、複合的な学習素材と位置づけられる。この教材の精読を通じて、生徒は複雑な構文や抽象的な単語が持つ意味を捉えることで、言語材料そのものだけでなく、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じた英語の使用実態や、使用される表現による英語の格式の違いなどについても学び取れるようすることを目指す。

また、この教材は、日本国憲法前文の要点を口頭で第三者に説明する言語活動を行い、自他の考え方を比べる活動を含んでいる。言語活動においては、発表者は相手を意識して要点を伝えるとともに、言葉に詰まった際は補助の活用（日本語版の前文の確認）等を行なながら、発表が行えるようにする。また、聞き手は発表内容をワークシートを参照しながら聞き、発表内容について質問したり、感想やコメントを伝えたりすることで、発表を主体的に聞くことができるようとする。

6 指導計画

時間	学習活動・内容 ^{*1}	指導上の留意点 ^{*2}
5	1. 導入 2. 公共 (1) 前後の東京裁判の様子を当時の動画で確認する。 (2) 史実から、日本国憲法前文が、短い期間で作成されたものであることを理解する 3. 日本国憲法前文の要点を確認する。 (1) 第1文を精読し、助動詞や多義的な意味を持つ単語の意味を確認しながら日本国憲法前文の全体像を捉える。 (2) 日本国憲法前文のうち、三大原則（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）と特に関わりの深い箇所を取り上げ、それらの内容を理解する。	・クロスカリキュラムの意義を説明する。 ◎戦後、日本は「敗戦国」という立場であったことを理解し、その立場が東京裁判やその他日本の様々なシステムにも離京を与えたことを伝え、多面的に当時の様子を捉えられることができる。 ◎憲法前文がいかに作られたのかを理解することで、アメリカ独立宣言などのこれまでの歴史的条文が関わっていることを理解することができる。 ・全箇所を精読はせずに、ポイントとなる箇所を重点的に取り上げ、考えさせる。 △助動詞や多義的な意味を持つ単語の意味を捉えることが困難である。 ⇒辞書を使ったり、これまで英C Iで学んだことを振り返ったりすることを促し、各単語の意味が捉えられるようとする。 ◎助動詞や多義的な意味を持つ名詞・動詞の
20		
35	4. 日本国憲法前文の内容を、自分の言葉で伝え合う。	

45	<p>(1) 日本国憲法前文のポイントを、ペアの相手と伝え合う。</p> <p>(2) 日本国憲法前文のポイントを踏まえ、前文の内容を1人3分でペアの相手に発表する。</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>意味と、それらの単語が持つイメージを捉えることができている。(観察)</p> <p>・次の活動である、憲法の内容を発表することに備え、憲法前文の要点を英語でのやりとりの中で確認させる。</p> <p>△憲法前文の要点がうまくまとめられない。 ⇒ワークシートのメモや前文の日本語版を見るよう促し、憲法前文の内容が整理できるようにする。</p> <p>△憲法前文の内容が発表できない。 ⇒事前に、言葉に詰まつたらペアの相手に助言をもらうよう伝え、内容を付け足したり、取りかかりを見つけたりできるようにする。</p> <p>◎日本国憲法前文のポイントを踏まえ、前文の内容を自分の言葉に置き換えてペアの相手に伝えることができている。(観察)</p> <p>・本授業で新たに気付いたことを公共の観点と英CIの観点に分けて書かせ、学習内容をメタ認知できるようにする。</p>
----	---	--

*¹公共の学習内容は、[公1]などと記し、英CIの学習内容は、[英1]などと記す。

*²・指導上の留意点 △予想される困難と ⇒解決のための手立て ◎評価